

報告タイトル

中国の商業銀行の変遷

“The Transformation of China’s Commercial Banks”

自由応募分科会1：中国金融発展の軌跡と課題

“The Development and Reform of China’s Financial System: Trajectory and Challenges”

氏名（所属）

岡崎 久実子（キャノングローバル戦略研究所）

Okazaki Kumiko (The Canon Institute for Global Studies)

要旨（800字程度）

中国の金融制度改革のうち、間接金融の要である銀行制度の改革は、総じて大きな成果を挙げたと評価できる。改革の重点は、当初は、計画経済時代のモノバンク体制を「中央銀行を中心に、多種多様の金融機関が併存する金融システム」に変えることに、1993年以降は、「社会主義市場経済の確立」という大目標の下で、商業性業務と政策性業務を分離することなどに置かれた。

2001年、中国政府はWTO加盟に際し、5年以内に同国銀行市場を全面的に对外开放すると約束したため、同国主要商業銀行が外国銀行との競争に太刀打ちできるように、その経営メカニズムを改善することが重要課題となった。10年程の時間をかけて行われた諸改革を経て、中国の商業銀行は、同国の経済成長に必要な資金を潤沢に供給しながら発展し、資産規模や利潤総額などで、世界ランキングで上位に入る銀行も増えている。

しかし、2010年代半ば以降、中国経済成長の減速につれて、同国非金融部門の過剰債務が問題視される中で、改めて銀行と借り手の関係が問われるようになっていく。とくに地方を拠点とする中小商業銀行のガバナンスの改善は重要な課題となっている。

習近平政権は「金融が実体経済に貢献する」ことを強く求めているが、商業銀行はどうあるべきなのか。近年、少子高齢化と国際経済関係の変化が生じる中で、経済・社会の「安定」がますます重視されるようになり、銀行部門でも中央政府による統制色がやや強まっているように見受けられるが、締め付けが行き過ぎて金融面のイノベーションを阻害することにならないか。

一方で、徐々にではあるが金利の「市場化」や資本取引規制緩和の動きもみられている。1970年代の日本とは事情は異なるにしても、中国でも「2つのコクサイ化」が進展しているように見える。この状況が後退する可能性は低く、金融の「市場化」の先延ばしには限度があるだろう。金融の「市場化」を進めるためには、地方金融機関の再編が急がれる。